

令和3年度 清水町総合教育会議 第2回会議議事録

1 日 時 令和4年2月16日(水)  
開会時刻 午前10時00分  
閉会時刻 午前11時30分

2 場 所 清水町役場4階委員会室

3 構成員 町 長 関 義弘  
教育長 朝倉 和也  
教育委員 半田 昭博  
教育委員 渡邊 若菜  
教育委員 眞田みつる  
教育委員 深澤 朱美

オブザーバー 副町長 高嶋 広幸  
総務課長 中村 誠  
企画課長 加藤 博樹

事務局 教育総務課長 大野 明彦  
こども未来課長 大嶽 知之  
社会教育課長 久保田 敏照  
教育総務課参事 渡邊 潤  
教育総務課課長補佐 岩崎 毅

4 議 事

- (1) 幅広い世代の読書推進について
- (2) 今後の教育政策について
- (3) その他

【町長(提案)】

本日の議事は、1時間の会議で議論するには、大変内容が幅広いが、時間が限られているので、進行に御協力をお願いします。

それでは、1点目の議事の「幅広い世代の読書推進について」で、令和元年度から5ヶ年で「読書のすばらしさを次世代に繋げよう」をテーマに「第3次清水町子ども読書活動推進計画」が教育委員会にて進められており、令和4年度は、その中間の検証と次期計画への下準備期間でもある。

については、「第3次清水町子ども読書活動推進計画」の進捗状況及び各課の図書に

関する状況等について、御感想、御意見等の御発言をお願いする。それではまず、進捗状況等について各担当課から説明願います。

#### 【事務局説明】

第3次清水町子ども読書活動推進計画の位置づけは、国の子ども読書活動の推進に関する法律を基本とし、国の第4次基本計画及び、静岡県子ども読書活動推進計画第3次計画を基本としている。

この町の計画は、当町の基本目標である「元気な子どもの声が聞こえる。まちづくり」の実現に結びつくものとして位置づけられている。

施策の方向性としては、町内すべての子どもたちが成長の過程で読書を通じ、読書の楽しさ、大切さを学び、生涯にわたって本に触れる人になってほしいとの願いから、読書環境の整備と読書の習慣づけを確立するよう取り組んでいる。

また、発達段階に応じた「読書環境の整備」「読書機会の提供」「読書活動の啓発」等の施策を、家庭・地域・学校を通じた社会全体で取り組んでいる。

まず、蔵書、特に児童書の充実であるが、児童書については、令和2年度では2,844冊、令和3年度の1月までで、1,710冊購入しており、一般書を合わせた蔵書数は、旧図書館閉館時74,340冊から85,885冊の11,545冊も増えている。

今後も計画的に蔵書を増やし、令和11年度までには目標数である108,600冊に蔵書を目指しており、児童書及びヤングアダルトコーナーの充実については、1階のこども図書館では、入り口から月ごとに飾り付けを行っており、その月にあった図書を揃えている。また、町内4書店から毎月、児童書、一般書の人気ランキングのデータを提供いただき、館内に掲示している。

各種子ども向け講座・行事の実施については、月2回のボランティア団体の協力により、読み聞かせ会の開催や特に今年度は、宮西達也先生のお話会を開催した。

ブックスタート関連事業の充実については、1歳6か月及び6か月の健診時に、絵本のプレゼントやおすすめ本の紹介などを行った。

図書館ボランティアへの支援については、ボランティアの研修や情報交換や活動支援を行った。

図書館職員の専門性の向上としては、県立図書館が開催する研修へ積極的に参加し、今年度は「図書館における著作権について」を図書館全職員向けに行った。

図書館の利用促進については、近郊にある幼稚園や小学校の園児や児童に、本を実際に図書館で借りる体験や図書館司書による読み聞かせなどを行った。学校への貸し出し体制の整備については、団体貸出制度があることから、町内施設に利用促進を図るための広報をしており、今年度は、特に南小学校が多くの本を貸出した。

#### 【事務局説明】

教育総務課からは、小中学校の読書活動の概要を御説明する。各小中学校には、学校に司書を配置しており、正規の職員1人及び会計年度任用職員3人である。小学校

には1人各校へ配置し、中学校は正規職員が両中学校を担当している。今は新型コロナウイルス感染症の影響で、図書室休館により貸出などに制限がかかっている。また、読み聞かせの活動についても、制限を設けている状況であり、この1、2年実施できていない状況である。

蔵書の状況については、学校の規模にもよるが、標準冊数が定められており、小学校の3校では、おおむね9割は達成している。中学校については、2校共に9割から8割半の状況である。

貸出の状況であるが、小学校が3割程度、中学校が1割程度と、落込んでいる状況であり、分析すると、小学校は授業の中で図書室にて本を借りることや、宿題の中で家庭での読み聞かせを受けること、高学年になると、この家族に読み聞かせをするといった授業のカリキュラムがある。中学校は、授業での活用がないので図書室の本を借りるといった状況が少なくなっている。

#### 【事務局説明】

こども未来課からは、こども交流館図書活動の貸し出し及び蔵書の状況を説明する。

こども交流館については、平成20年9月にこども図書館を町が引き継いで開設しており、この施設については、図書館機能のほかに遊び道具などを多数配置し、子どもの遊びや交流の場の提供、児童館の類似施設というような位置づけで運営をしている。

施設は開設後、13年を経過しているが、昨年3月16日に子育て総合支援センターの隣に移転し、リニューアルオープンしている。

この施設の蔵書は、現在、絵本や児童書児童図書を中心に、6,968冊の蔵書を有しており、この施設の特徴としては、本の購入が書店と直接取引があり、新刊などのリクエスト書籍を一般的な図書館に比べ迅速に配置できる利点がある。現在、月平均14から15冊購入をしているが、利用者からは、評価いただいている。

また、絵本や児童書に特化しているのも、読み聞かせを行う方や、保育の関係者の方々からも好評を得ている。

読書の推進活動としては、利用者からの本のリクエストに迅速に対応するほか、ホームページ、チラシなどを使い、本の紹介をしており、現在、新型コロナウイルス感染症の影響で中止をしているが、これまでは読み聞かせ活動を定期的な実施するとともに、図書の普及に努めている。

本の貸し出しの現況は、令和3年度1月末現在の集計では、1万7,783冊月平均が約2200冊の貸し出しがある。

これは新型コロナウイルス感染症の影響が出る前の令和元年度の同月と比べると、そのときの冊数が3万6,203冊であり、新型コロナウイルス感染症の影響が出る前に比べて約半分の利用が減少している。

#### 【町長】

ただいま各担当課長から第3次読書推進計画の進捗状況及び全施設の図書に関する状況等についての説明があった。については、御感想、御意見等を御発言願う。

#### 【委員意見】

第3次清水町子ども読書活動推進計画を拝見すると、改めて読書の大切さを認識した。この中で、読書に対する、子ども達の実態が知れ、私なりに調べたところ、令和2年度の子どもの読書活動に関する実態調査の結果が公表されていた。

この調査では、子ども達の読書量については、年齢が上がるにつれて本を読まない傾向にとなっている。

先ほどの説明でも町内の児童生徒の未読書率についても、年齢が上がるにつれて、多くなるとのことである。感じることは、子ども達の読書環境は家庭が大きく影響する多く読書をする家庭環境であれば、必然的に子供は読書する。学校でも読書活動を推進しているので、実際に読んだ冊数を把握する必要があると考える。読書することは、読解力が定着し、それにより理数系、英語の分野などにとっても、根本的な学力の基礎になると考える。いろいろな町の計画の中でも、読書活動ボランティアが多く活躍していて、本町は県内の中でも盛んであると感じる。

また、町で行っているブックスタートは、読書推進に当たり良い活動であるが、小学校1年生では、特定の絵本ではなく、幅広く選ぶことができればより効果が出るのではないかと考える。読書活動の推進にあたっては、定期的に直木賞を受賞した作家に講演をお願いすることができれば、更なる効果が見込めると考える。

#### 【町長】

その内容について、担当課から説明等があればお願いします。

#### 【事務局】

直木賞作家等の講演会の御提案があった、今年度は4作家の講演やお話会、ワークショップを行っている。来年度は新型コロナウイルス感染症の状況にもよるが、書店の協力を得てイベントの開催を考えている。

#### 【事務局】

こどもの読書の関係については、現在、幼稚園や保育所では、絵本を家庭に持ち帰り、自ら読書や保護者による読み聞かせの取組を行っている。これが将来的に読書の習慣づけに繋がると考えている。もう1点は、子ども交流館については、スペースをお借りして、人を寄せられる工夫を考えている。

### 【事務局】

ブックスタートのファーストブックでは、1歳6か月を対象に、いくつかの候補の本から選んでいただいております。セカンドブックは、小学校の新一年生を対象に絵本を配布しております。また、サードブックは、現在、中学生を対象とした本のリストを作って選べるといった方法やその仕組み作りを考えている。

### 【委員意見】

第3次清水町子ども読書活動推進計画の進捗状況を拝見し、図書室について考えた。文部科学省から図書室標準を満たすための学校図書室作りが呼びかけられており、各分野に関する図書の配分を達成させるといった内容と記憶している。

私自身は、各小学校をボランティアとして訪問している中で、西小学校の図書室は素晴らしいなと思っている。

図書室に扉がないため、子ども達に、どんな本が図書室にあるか興味を持って気軽に図書室に入ることができる構造である。一方、中学校の図書室は目的をもって入室するため、気軽に立ち寄りにくい状況であると感じている。

不登校気味の子ども達は、保健室登校が主となっているが、図書に触れることで改善に向かうことも考えられるので、図書室がそういった場なれば良いと考える。

また、いくつかの未達成事項に関しては、役場庁舎内の各課連携や各ボランティアの協力を得ることで達成ができるものと考えている。

### 【事務局】

小学校学校図書室の環境改善という点で、西小学校の図書室は、もとは普通教室あったが、壁を取り払い廊下から自由に出入りが可能な形態にし、本が目につくようになっていく。他の学校は校舎の両端に配置している構造になっており、配置的な問題もあるので、学校施設が老朽化している中で、今後の大規模改修等で対応を検討したいと考えている。

### 【委員意見】

第3次清水町子ども読書活動推進計画の進捗状況を拝見し、この中で学校司書の配置が、100%になったことや、読書活動を通じて若い教諭を中心とした校内組織の確立と活性化を進めている数字が上がったことは、実感として評価するべき点である。

司書が配置されてからは、図書室の掲示物も充実し見せ方や、展示のし方が本当に良くなっている。また、この本を読みたいと、大人の私でも思えるような工夫をされている。小学校の図書室は、休み時間なんかも図書室に来る子ども達が増えているのに対し、中学校では図書室に行かなくなるのは残念である。図書室の配置を変えることは難しいが、図書室にある本が充実しているにも関わらず、利用する子どもが少ないと感じる。また、学級文庫の本を充実させて、こんな本が図書室にあることをPRすることで図書室の利用促進に繋がればと考える。

サードブックについては、お勧めブックリストを作成し、町長や図書館長、校長先生等のお勧めの本の紹介し、選択肢を広げることにより子ども達も興味をもっていただけるものとする。このリストから町内の書店にて購入したものに対し助成する制度があれば促進に繋がると考える。

#### 【事務局】

サードブックについては、購入したものに対し助成をするといった新たな視点での御提案なので、今後の参考とする。学級文庫の活用については、校長会などで活用方法などを共有していきたいと考える。

#### 【委員意見】

事前に配布された資料から、ボランティアグループの活動状況について、各学年で1団体のボランティア活動が行われている学校はないので、当町は充実した図書の推進活動がなされている。

ボランティアの活動の方達を中心に活動しているが、幼稚園や保育園に絵本リストを配布しているが、令和元年度、令和2年度ともに0%はなぜか、お聞きする。

#### 【事務局】

幼稚園や保育所の絵本リストの配布が0%については、3歳児の子ども達に対し、静岡県教育委員会が毎年、本は友達という絵本のリストを毎年配布や保護者に周知し、その年齢発達段階に適した本の紹介をしている。

また、発表会などで演じる絵本を題材にしたものなどを紹介しているが、集計の考え方に各施設で、捉え方が異なることからこのような数値になっている。

#### 【委員意見】

0%が続くのであれば、考え方の統一や方向転換が必要であるとする。私のほうで高校ではどのような取組がされているのか、司書に伺ったところ、例えば、貸出カードを貸出数の多い生徒には、クレジットカードのように付加価値を持たせるようにしている。また、貸出数の多い生徒と書店に出向き、どのような図書を整備したらなど、一緒に購入に出向くといった取組をしている。貸出数の多い生徒の希望を優先的に少し購入してみるなど、取り組んでいる学校がある。

高校生は、勉強と部活がウェイトを占めているため、読書より英単語を覚える圧力があるが、幼い時期に触れた本の記憶は残っており、小学校低学年とか幼稚園の子は遊びの中に読書を取込み、どれだけの時間を費やせるかがポイントと考える。

また、幅広い世代に利用できる図書にも関係してくるが、電子書籍の普及はどのような状況か。

#### 【事務局】

電子書籍については、沼津市が令和3年から電子書籍の図書の利用を開始しており、他の市町でも進められている、メリット、デメリットがそれぞれある。

メリットは来館が不要、持ち運びが不要、返却忘れの心配がない、自動音声の読み上げもできるといったことがある。

また、デメリットについては、ネット環境、通信量が必要となることや、利用資格の制限などがあげられる。

加えて、複写ができない、冊数が少ない状況であるが、近隣市では、1万2000点を整備し、事業予算は郷土資料など書籍のみではないが、約2,500万円投資したと聞いている。

#### 【委員意見】

当町においても、メリット・デメリットはあるにしても、いずれ電子書籍も導入し拡張していくこととなると推測する。

#### 【事務局】

電子書籍につきまして、町民アンケート等で状況を把握し検討していきたいと考える。

#### 【委員意見】

以前、電子書籍に関して子ども達に見せることに疑問があるといった講演を聞いたことがある。子供の脳への影響が大きく、何年前に多くの子ども達が何らかの症状で倒れた事件を記憶している。

学校の授業もICT化の方向に向かっているが、その両方が並行していくことが、子ども達の成長に必要と考える。

#### 【町長】

ここで一つ目の議題について、教育長から意見を伺う。

#### 【教育長】

この第3次の計画は、5年間の期間であるが、ここで3年間が終わろうとしている。進捗状況も提示されているが、残りの2年間は教育委員からいただいた意見を参考に進める必要がある。教育委員が提供の資料からも年々読書率が低下しているとのことで、全国的にも低下しているのではないかと推測する。

特に中学生高校生の読書離れが、大きな課題となっていると強く認識し、やるべきことは各施設で読書の推進に取り組んでいく。

読書を推進するにあたっては、改善が必要な御意見いただき、良書に巡り合える環

境の整備や学校図書館の整備にあたっては、西小学校の図書室をモデルにしては、との御意見もあり、整備に加えて、学校図書の司書の活用も読書の推進には重要である。

図書室に司書を配置することで、図書の紹介や案内が大きく変わってきているので、司書の活躍に期待したい。

加えて、ボランティア活動の読み聞かせについては、当町には約 12 団体あるといったことから、恵まれた環境であり、これらをさらに活用していく必要がある。

中学校においては、生徒の時間が限られる中で、中学校両校とも朝学習及び朝読書を行っており、南中では週 5 日、清水中では週 4 日朝、読書に取り組んでいる。

これは学校生活の中にきちっと位置づけて、定着させるとともに、図書室を授業で使うことが必要であり、1 人 1 台のタブレット端末が整備されているが、調べ学習などには万全ではなく、図書室にて、紙媒体と両方を活用する必要がある。

また、図書室の配置について、委員からの御意見があったが、配置を変更することは、何らかのタイミングでなければ難しいが、できることとして、例えば常に図書室を開けておく、鍵を掛けないで、いつでも誰でも自由に入れるといった、環境を整えていかなければいけない。

読書については、各委員から学力の基礎であることや、非常に重みのある言葉を委員から御意見があり共感したところである。

中学校での学級文庫という話があり、朝の学習で読んだ本を一時的にロッカーの上でも並べて置くと、相当な本の冊数になるので、興味のある本を身近に置いておくということも、工夫の一つである。まだまだ中学校は対策ができることがたくさんあると考えている。この後の話題となるが、各施設で推進を取組む施策に対し連携を取ることが、これも大きなポイントになると考える。

## 【町長】

今、各委員からさまざまな評価や御提案をいただき、私は読書が学習の基本であると認識している。基本をどうやって、習慣付をすることが一番大切であり、幼児期から本に触れることを基本に行政の事業として進めるにあたって、委員からの御意見を参考にする。

次の 1 番の 2 つ目の議題である今後の各種各事業の連携及び各活用の方針について少し触れる。まほろば館は広く町民の憩いの場として愛され、地域に根づくよう図書館資料の充実や複合施設としての特徴を生かしたソフト事業の展開が求められている。そこで、図書館機能を生かしたソフト事業を展開するとともに、計画的に魅力ある資料の充実に努めており、図書ボランティアの育成強化に取り組み、保健センターや学校などとも連携といった幅広い世代の利用促進を図りたい。

また、低学年から図書に触れ合う機会を設け、読書の習慣づけや図書に触れ合う機会を増やし、子ども達に読解力を身につけるとともに、子ども達だけでなく幅広く広い世代が利用でき、図書に親しむ触れ合う機会を増やしたいと考えている。については、まほろば館と幼稚園保育所学校の連携について、第 3 次清水町子ども読書活動推進計



画での事業の拡充や見直しをはじめ、新たな事業などについて御意見をいただきたい。

#### 【委員意見】

まほろば館からの図書の啓発活動については、ありきたりになるが、広報誌などにて頻繁に発信することが必要である。発信して図書館を使用してもらうか、いろいろなイベントを行うこと、幅広い層が興味を持ちそうな事を見つける多彩な企画を積極的に行うことが必要と考える。

#### 【事務局】

現在の啓発については、広報紙において、新着図書の紹介や図書館内において、カウンター前におすすめの本を紹介や、棚には本が見えるように配架している。

毎年5,000冊前後の本を購入していることから、どのように来館者に届けるのかを今後、更に検討していきたいと考えている。イベントについては、教室や講座等と合わせ、わくわくするような企画を考えていきたい。

#### 【委員意見】

個人的にまほろば館を利用することが多く、旧図書館に比べ来館者が増えており、訪れる方たちは楽しそうである。また、図書館、保健センターの職員が楽しそうに働いている。図書館司書が展示の仕方を工夫されていて、町内出身の方の作品が展示されており、子ども達にとっては、身近な存在の人が頑張っていることが伝わる展示で良いと感じた。

また、図書館独自のイベントではなく、併設の保健センターと行事を連携し企画すると、まほろば館の良さが引き立つのではないかと考える。

#### 【事務局】

毎月第1土曜日に保健センターと連携しながら、健診時などに関連する健康の本の提供の事業を行っている。今後もより良い本の展示と紹介をしていきたいと考えている。

#### 【委員意見】

新型コロナウイルス感染症が広がる前には、中学生の図書館ボランティアを行っていたが、このイベントは人気があり、募集と同時にいっぱいになっていた記憶がある。

これは、中学生が図書館へ行くきっかけとなっていたので、新型コロナウイルス感染症が収まったら是非復活をお願いする。

また、図書館への来館のきっかけ作りとして、図書館の探検ツアーの企画を提案する。これは、幼稚園や保育園、小学生、親子での参加や大人をターゲットとし、開館前の司書は1日、このような仕事をしているとか、普段入室ができない場所に侵入できるといったイベントから、図書館に行かない人にとってのきっかけになればと考え

る。

#### 【事務局】

幼稚園、保育園、小学校2年生までを対象に授業の一環として来館いただいているおり、司書が図書館の機能や仕事を案内している。それ以外の学年に対しては、今後企画していく必要がある。

#### 【委員意見】

各委員の意見を伺って、まほろば館ではワクワクする事がすごく大事であり、静かな中で、本の検索や読書をしなければならないといった敷居を高くすることは、足が遠退くと考える。私は私的な行動は夜10時過ぎとなることが多く、その時間でも本を読まないわけではなく、図書をインターネット販売にて、中古等の本を購入している。世の中には、夜中に行動する方も多く、時間に関係なく入手できる電子書籍などの導入に興味がある。

#### 【町長】

電子図書についても、整備をするにあたって、いろいろな課題はあるにしても、確かに便利であり、必要に応じて検討していきたいと考える。

#### 【町長】

ここで2つ目の議題について、教育長から意見を伺う。

#### 【教育長】

色々なところで読書推進に取り組まれているが、いかに連携をするかということで、新たな課題が出てくる。この辺りをまほろば館が中心となって、各所と連携することが必要である。まだまだのまほろば館の利用されている方は、利用者カードでいうと12パーセントしかないということで、学校などと連携して、利用者カードを作って利用者を増やすことも必要であると考えます。

#### 【町長】

次の議事の今後の教育政策について、説明する。

今年度当初から始まった各小中学校において、GIGAスクール構想により整備されたタブレット端末等を活用し、新たな学習形態と、これまでの教育を組み合わせ、仕組みを導入し、学力の向上に努めていく。学校施設の整備は、公共施設等総合管理計画の個別施設計画に基づき、南小学校北校舎の長寿命化対策を検討するため、躯体及び設備の詳細な基礎調査を実施するとともに、その結果を踏まえ、今後の対応方針について総合的に、判断していく。

子育て支援の分野は、「子ども家庭総合支援拠点」を設置する。この「子ども家庭総

合支援拠点」とは、子ども達とその家庭、妊産婦を対象に、実情の把握、相談全般から通所、在宅支援など、専門的な相談や調査、継続的なソーシャルワーク業務までを行う機関である。

事業内容といたしましては、児童相談所の市町村版というイメージであり、これまでどおり、関係機関と密に連携しながら、児童と妊産婦の問題に迅速に対応していきたいと考えている。

文化・芸術の分野は、町の歴史や文化を町民の皆様を知っていただくため、歴史講座の開催や町の歴史に関する図書を図書館に配架していく。

本町には貴重な史跡や資料が点在しているが、その中でも指定文化財は18点あり、それらの文化財は各所有者に大切に保存していただいている。その中でも八幡神社には徳川家康や今川義元、また北条家の朱印状など全8点の指定文化財が保存されており、八幡神社には源頼朝と弟の義経が対面した折に腰かけたと伝承がある対面石がある。本年1月から放映されている大河ドラマ「鎌倉殿の13人」においても、そのことが紹介されるとのことである。

また、来年も「どうする家康」が放送されるので、これを契機に、改めて町の歴史文化を町民が身近に感じ、学ぶ機会として歴史講座等を開講していきたいと考えている。

社会教育の分野は、複雑化・多様化する社会の中、誰一人取り残さない教育の浸透を図り、「地域とともにある学校づくり」を推進し、学校教育を核とした地域とのより良い関係づくりを進めていく。

具体的には、地域学校協働本部事業として、各学校に配置しているコーディネーターが中心となり、各学校が抱える課題や支援ニーズを把握し、地域ボランティア等との調整や支援活動を実施していく。

また、放課後等における子どもの居場所づくりとして、チャレンジキッズ事業では、各小学校単位で学校の体育館を使用し、地域パートナーシップ協定先であるアスルクラロ沼津のスタッフを中心に運動遊びを実施する。更に、土曜日にも主な活動場所を地域交流センターとして、様々な遊び体験等の教室を開催する。こちらの件は、事務局の方に皆様方の御意見等をいただければと思う。

#### 【町長】

委員の皆様方から貴重な御意見をいただきお礼申し上げます。

今後、関係者と引き続き委員の皆様と意見交換を行い進める考えである。

#### 【事務局】

それでは以上で第2回の総合教育会議を終了する。